

【対談】

歯科衛生士が果たす『小児歯科医療』での役割と使命

「体の健康は口から」といわれるように、口の健康状態は全身の健康と深く関わっている。しかし、口腔のケアの重要性はわかってはいるが、正しくケアできていないという人も少なくない。そこで注目されているのが、「歯科衛生士」の存在だ。小児期の口腔ケアは成長期ひいては高齢期の口の健康にも影響するだけに、小児歯科医療において歯科衛生士が果たす役割は大きい。福岡歯科大学教授の岡暁子氏と福岡医療短期大学教授の馬場篤子氏に、小児の口腔機能の課題や歯科衛生士の役割について語ってもらった。

**小児に増えている口腔機能発達不全症
口呼吸や指しゃぶりが歯並びにも影響**

岡 最近の子どもたちを診ていて感じるのには口腔機能が低下してきているということです。口腔機能の代表的なものは「食べる(噛む、のみ込む)機能」と「話す機能」になります。最初には「食べる機能」で、現代は、軟食が多い食生活になり、またマスク着用が増えるなど、子どもたちが自然に口腔機能を獲得していくことが難しい環境にあるといえます。小児歯科分野の新しい疾患として口腔機能発達不全症が定義され、2018年から保険診療の適用になっています。



福岡歯科大学 成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野 教授

岡 暁子 氏

「話す機能」に陥らないためには、小児期にしっかりと正常な口腔機能を獲得しておくこと、そしてそれを維持するセルフケアが重要です。そのためのお口のケアは、生まれた時から始めましょうと言っても過言ではありません。歯科医療は生涯にわたって口腔の健康を支える重要な医療ですが、その一端を担う歯科衛生士が全国的に不足しています。有資格者は約30万人いるのですが、実際に働いているのは約15万人という状況です。

**全国で深刻化する歯科衛生士不足
持続可能なキャリア形成と復職支援**

岡 口の衰えと体の衰えは大きく関わっています。高齢になってもオーラルフレイル(※1)に陥らないためには、小児期にしっかりと正常な口腔機能を獲得しておくこと、そしてそれを維持するセルフケアが重要です。そのためのお口のケアは、生まれた時から始めましょうと言っても過言ではありません。歯科医療は生涯にわたって口腔の健康を支える重要な医療ですが、その一端を担う歯科衛生士が全国的に不足しています。有資格者は約30万人いるのですが、実際に働いているのは約15万人という状況です。



福岡医療短期大学 歯科衛生学科教授
歯科衛生士研修支援センター長

馬場 篤子 氏

馬場 口が日常的に開いている、いわゆる「お口ポカン」の子どもも増加傾向にあり、呼吸機能の低下も気がかりです。口腔機能発達不全症の1症状である口唇閉鎖機能不全は将来の歯並びや見た目に影響を及ぼすだけでなく、呼吸の常態化により呼吸器感染症のリスクも高くなります。指しゃぶりも正常な口腔機能の獲得を妨げる要因となる習癖で、離乳後の小児に多く見られますが、乳歯列完成後も持続する場合は出っ歯の歯並びになつてしまい、口唇を閉鎖しにくくなるので「お口ポカン」になつてしまう大きな要因となります。

正しい口腔機能獲得のために
歯科衛生士が担う大きな役割

岡 乳幼児期の口腔機能の発達を妨げる因子をうまく取り除いて、正常な口腔機能を獲得させることは小児歯科の重要な課題となっています。食べる機能を正しく獲得するには、乳歯が生える前から準備が必要です。診療では

2025年度 厚労省事業の実施計画(案) 新人・復職・スキルアップ	
5/18 (日)	歯周治療における基礎知識(講義) D. H. に必要な画像診断の基礎知識(講義) 歯科衛生士による口腔健康管理(講義)
6/15 (日)	歯科衛生士介入としての歯科予防処置(講義・演習) ・口腔内の情報収集 EPPとBOP ・スケーリング・ルートブレイニング ・シャープニング
7/13 (日)	パワースケーラーの取扱い(講義・演習) ・超音波スケーラーとエアースケーラー PTCとPMTCの取扱い(演習)
8/31 (日)	小児期・高齢期における口腔機能管理と指導(講義) ・口腔機能発達不全症の評価と対応法 ・口腔機能低下症の評価と対応法 ・MFTを応用した訓練の実際
9/14 (日)	顎関節症の基礎知識とD. H. の果たす役割(講義) 機能の評価と対応法(演習)
10/12 (日)	就職ガイダンス 企業セミナー ライフステージに対応した歯科衛生士介入(講義) 栄養指導と食事指導 ・妊産婦期、乳幼児期、学童期、青年期、成人期、 老年期における指導の要点
11/16 (日)	歯科衛生士アセスメントの手法(講義・演習) ・口腔内スキャナーの基礎知識と操作法 ・口腔内写真撮影の基礎知識と操作法
12/7 (日)	D. H. のためのインプラント処置における基礎知識(講義) インプラント患者の管理の実際(講義)
1/18 (日)	初めて学ぶ歯科衛生過程(講義・演習) ・アセスメントから評価の手法、記録の取り方

※1 オーラルフレイル……食物を噛んだり飲み込んだりする機能が低下したり、滑舌が悪くなったりするなど口の機能が低下しつつある状態
※2 2025年度の研修は2025年5月〜2026年1月まで月1回、全9回開催予定。参加費無料